



	<b>ディプロマ・ポリシー とは</b>
<b>定義</b>	各大学がその教育理念を踏まえ、どのような力を身に付ければ学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。

## 本学の「ディプロマ・ポリシー」

学校全体	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門家として価値・知識・技術・態度を習得する。</li> <li>2. 汎用的スキル、特にコミュニケーション、チームワーク、プレゼンテーションの能力を習得する。</li> <li>3. 課題を自ら発見し、総合的な経験に基づき、創造的に解決する能力を習得する。</li> <li>4. 社会の一員としての責任と自覚を持ち、行動できる資質を身に付ける。</li> </ol>
こども未来学科	<p>基本的な知識、技術及び人間としての態度を修得させ、専門職としての誇りと自覚を持ち、明るく健康的な地域社会、地域医療及び地域福祉を形づくりに貢献し得る有能な人材を養成するため以下に示す知識・技術・判断力を身につけ、所定の単位を修得することにより保育士の資格を取得することができます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 保育士としての自覚と誇りを持ち、子どもに寄り添い細やかな生活援助ができる人</li> <li>② 子どもの発達に関する専門的知識を持ち、適切な判断のもとに保育の実践ができる人</li> <li>③ 広い視野と豊かな感性を持ち、コミュニケーション力を身につけた人</li> <li>④ 家庭との連携を密にし、保護者等への相談・助言を積極的に行い、実践力を身につけた人</li> <li>⑤ 心身共に健康で、明るく地域社会の発展に貢献できる人</li> </ol>
介護福祉学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション力に基づいた、相互理解による援助的関係を築ける</li> <li>・論理的思考を活用し、科学的根拠に基づく介護実践ができる</li> <li>・人と人や地域社会とのつながりなどの問題に関心を持つことができる</li> <li>・多様なケア環境における多職種との協働・連携の中で介護福祉専門職としてその機能を発揮できる</li> <li>・介護福祉の進歩や社会の動向を踏まえ、介護福祉実践力の向上のため研鑽をし続けられる</li> </ul>
柔道整復学科	<p>地域医療に貢献できる人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職としての倫理観とコミュニケーション能力</li> <li>・国家試験合格を目標とした専門職としての能力</li> <li>・資格取得後、専門職として活躍できる能力</li> </ul>
作業療法学科	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な作業療法の知識・技術を有し、さらにそれらの技術を高める努力を常に意識し行動できる人</li> <li>2. 対象者の方々の尊厳や主体性を尊重し、心に寄り添い、共感・倫理観にもとづいた作業療法の実践ができる人</li> <li>3. 作業療法実践についての基本的な臨床的思考と判断能力を備え、対象者にとって最善の支援を迫及する行動を身につけた人</li> <li>4. 社会人として、また自己と専門職の発展に関心を持ち、それらを学修する積極性を身に付けた人</li> </ol>
理学療法学科	<p>教育の実施や卒業認定・称号授与に関する基本的な方針</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法学科の所定の単位を修得した者に卒業認定を行い、高度専門士の称号を授与します。この称号は大学の学士相当と認められており、大学の修士課程に進学可能です。</li> <li>2. 理学療法士として必要な知識、技術、態度について理解し習得されたことを、各教科の担当教員が期末試験を中心に、授業態度、出席状況等を含めて総合的に評価します。必要とされる基準に達したと判断された場合、合格・進級が認められます。</li> <li>3. 理学療法士には、医療従事者として必要なコミュニケーション能力、他者への共感、協調性など一般的な社会性が期待されます。いくら高い知識と技術を習得しても、患者や家族、他職種との円滑なコミュニケーションが取れなければ、知識や技術は役に立たず、望ましい社会貢献は期待できません。学園生活の多くの場面で医療従事者としてのそれらの資質は評価され、必要であれば指導改善を促されます。</li> <li>4. 前期・後期の授業が終了した時点で、学生が担当教員の授業評価を行い、教員の授業内容について、学生一人一人からフィードバックを受けます。教員はその評価内容を真摯に受け止め、必要な改善が求められます。</li> </ol>